



持続的な地域づくりに向けて

赤谷プロジェクトでは「持続的な地域づくり」を目標の一つに掲げています。

このテーマに取り組んでいるのが、赤谷プロジェクト地域協議会(以下、地域協議会)と地域づくりWG(ワーキング・グループ)です。

水源保全活動「ムタコの日」

地域協議会では、地域の水源となっているムタコ沢流域で「おいしい水と豊かな森」に支えられた地域づくりを目標に、身体を使った活動・頭脳を使った活動・言葉を使った活動の3つの活動を展開しています。

身体を使った活動では、地元の林業会社の協力をいただきながら市民の方と一緒に、毎年、カラマツ林の手入れを行っています。

この活動を通して水源を守ることの大切さや山仕事の楽しさ、そして大変さを実感してもらってきました。頭脳を使った活動では水をはぐくんでいる森の仕組みを調べ学んでいます。

森の手入れをすると水源はどのようによくなるのか、定期的に森林土壌の貯水能力やムタコ沢の水質、濁りの程度を調べています。

また、地域の子供たちなどを対象に自然観察会を開催し、人工林とブナ林の土壌の吸水能力の違い、ムタコ沢の上流と下流の水生昆虫の種類の違いなどを観察してもらっています。

今後はこのような調査をより科学的な方法に発展させ、水源地の保全に役立てていきたいと考えています。言葉を使った活動では「ムタコの日」という活動自体を地域ブランドとして広め定着させる工夫をしました。今までの活動を通して「ムタコの日」は徐々に地域に認知されつつあります。

しかしながら、今は「いいことをしている」と言ったイメージです。将来的には「役に立つことをしている」と言われる活動を目指しています。



「ムタコの日」での間伐体験の様子

旧三国街道マップづくり
地域づくりWGでは、赤谷の森の南西部を通る「旧三国街道」を理想的な自然観察路とするため、様々な取り組みを行っています。

この街道は、奈良時代から平安時代にかけて開かれたと言われ、現在私たちが歩いている歩道は、江戸時代の慶長年間に整備されたようです。太平洋側と日本海側の物資の流通文化の伝播に貢献した重要な街道だったようです。

この街道について、地域づくりWGでは平成20年度に「旧三国街道フットパス網計画」を作成しています。

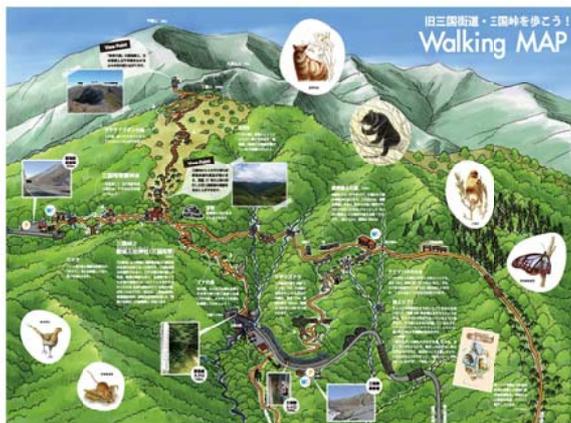
これは、歩道の整備状況はもちろんのこと、周辺の野生動物の生息状況や森林植生の調査も行い、それらを総合的に評価した上で管理・行動計画を立てているのが特徴です。

この行動計画の一環として、平成23年度から、ハイキングマップづくりに着手しました。

猿ヶ京温泉に宿泊された方々に、この地域の温泉以外の魅力を知っていただくことを目的としたマップですが、まずは、地域の観光業に携わる方々と旧街道の魅力を共有するワークショップを開催しました。

次に、この魅力をより深く理解するための現地学習会、そして観光客を対象としたモニターツアーの開催と入念に情報や意見の収集を行い、今年4月に「旧三国街道・三国峠を

歩こう！」が完成しました。皆さんも是非、このマップを手に旧三国街道を歩いてみてください。



4月に完成したマップ:みなかみ町観光協会等で入手できます